

プログラム

【第1部】小ホール2(現地開催のみ)

11:00-14:30 研究相談会 [ブース①～④]

13:30-14:30 ポスターセッション 発表時間/奇数番号:13:30-14:00、偶数番号:14:00-14:30 ※演題については別紙参照

【第2部】小ホール1・ライブ配信(ハイブリッド開催)

14:45-14:50 開会挨拶

14:50-15:05 藤田医科大学拠点の活動紹介

藤田医科大学 学長/拠点長 岩田 仲生

15:05-17:20 特別講演

①「我が国におけるトランスレーショナルリサーチの現状と将来展望」
大阪大学感染症総合教育研究拠点 エグゼクティブ・アドバイザー 特任教授 金田 安史

②「国立がん研究センターのバックキャスト型開発支援とエコシステム構築」
国立研究開発法人国立がん研究センター 理事 土原 一哉

[休憩15分]

③「産学官による「Co-creation(共創)」と橋渡し研究支援機関への期待」
日本製薬工業協会 研究開発委員会 専門副委員長/トランスレーショナルリサーチ部会長 野々山 聡

④「東日本における再生細胞医療拠点『CReM TONOHANE』の現状と今後の展望」
慶應義塾大学医学部 教授 中村 雅也

座長: 藤田医科大学 橋渡し研究統括本部 拠点統括 佐谷 秀行
藤田医科大学 橋渡し研究統括本部 拠点統括補佐 近藤 征史

17:20-17:30 令和9年度 橋渡し研究プログラム 藤田医科大学拠点公募案内

藤田医科大学 橋渡し研究統括本部 拠点統括 佐谷 秀行

17:30-17:35 閉会挨拶

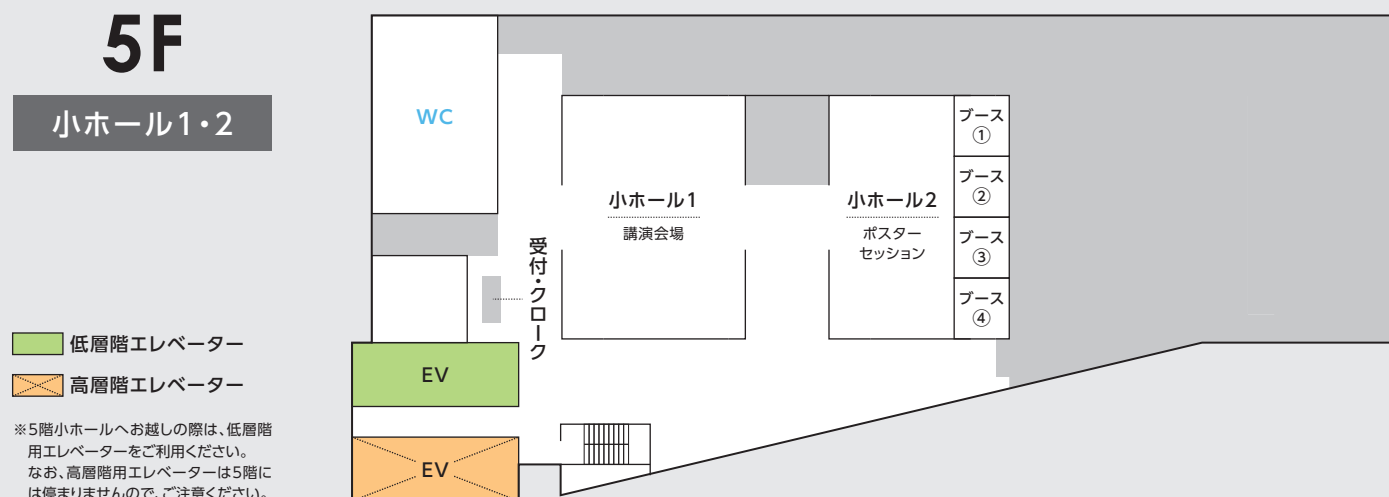
意見交換会(懇親会)(小ホール2)

18:00-19:30 参加費/3,000円(学生無料)

フロア案内

5F

小ホール1・2



第2回

橋渡し研究支援機関 学校法人藤田学園

橋渡し研究シンポジウム

2026 9/17 [THU]

会場

ウインクあいち
5階小ホール1・2

主催: 学校法人藤田学園 藤田医科大学

共催: 先端医療開発コンソーシアム(C-DAM) 協賛: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

連携が創る実装への道筋

多様なパートナーと育てる独創的な橋渡し研究拠点へ

2nd Translational Research Symposium

ご挨拶

本日は、「学校法人藤田学園 第2回 橋渡し研究シンポジウム」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本学では、独創的な研究シーズを社会実装へつなげる橋渡し研究を推進するとともに、研究大学として、研究成果を着実に実用化へ導くための研究支援体制の充実に取り組んでおります。

本シンポジウムのテーマは、「連携が創る実装への道筋」です。橋渡し研究では、優れた研究成果だけでなく、研究者、臨床、企業、行政、支援機関など、多様なパートナーがそれぞれの強みを持ち寄り、協働することが不可欠です。本シンポジウムが、新たな出会いや共創を生み出し、研究成果を社会へ届ける新たな一歩となることを期待しております。

藤田医科大学 学長／
橋渡し研究統括本部 拠点長



岩田 仲生

研究相談会

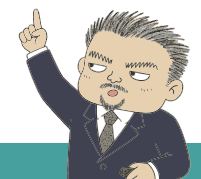
※小ホール2 相談ブースにて開催
※ご希望の方はスタッフまでお声がけください(空き状況によりご案内します)

AMED橋渡し事業担当者による

よろず相談会

AMED資金の獲得や研究戦略、研究の進め方、今後の展開に関する悩みなど、研究活動に関するさまざまな疑問や不安について幅広くご相談いただけます。
研究の方向性を整理する機会として、また研究推進の「作戦会議」の場としてもご利用ください。

相談内容 | ・AMED資金の獲得 ・研究開発の方向性 など



※AMED 塩塚 政孝 氏 来場

藤田医科大学 拠点担当者による研究相談

機関内外の研究者のみなさまが橋渡し研究、臨床研究を立案・実施する際に生じる様々な問題や課題等に対し、藤田医科大学の専門家が幅広く相談に応じます。

相談内容の例

橋渡し研究プログラム(研究費)への応募、特許出願、知財戦略、研究シーズの開発戦略(基礎～応用研究、前臨床)、臨床開発戦略(PMDA相談、治験、統計解析など)、実用化に向けた企業連携、臨床ニーズ・マッチング、ベンチャー・スタートアップ支援 など



個別相談

特別講演

我が国におけるトランスレーショナルリサーチの現状と将来展望

講演概要 革新的医療技術を創出するため、アカデミア発の画期的な研究成果を実用化につなげるトランスレーショナルリサーチを推進するため文科省、AMEDが橋渡し・臨床加速化プロジェクトを長年にわたって推進してきた。その中でノウハウが蓄積され人材も育成されてきたが、もっと広く画期的な研究成果を集め育てる仕組みが必要である。さらに戦略的なシーズ探索、知財戦略、産学連携の強化、スタートアップの創出に大学を挙げて取り組まねばならない。そのための戦略と今後の課題について紹介する。

大阪大学感染症総合教育研究拠点
エグゼクティブ・アドバイザー
特任教授



金田 安史

国立がん研究センターのバックキャスト型開発支援とエコシステム構築

講演概要 国立がん研究センターでは、AMED橋渡し研究プログラムや再生医療実用化支援事業を通じて基礎段階のシーズを臨床・実用化へと導くとともに、本格開発に必要なリスクマネーの調達にスタートアップ支援事業を活用している。同事業では、資金に加え国際規制対応や臨床開発戦略などの実践的ノウハウをシーズホルダーに提供し、伴走型支援を展開する。政府成長戦略でも先端医療開発が注目されている中、オープンイノベーションによる創業力の向上とともに、我が国の産業活性化も牽引することを目指している。

国立研究開発法人
国立がん研究センター
理事



土原 一哉

産学官による「Co-creation(共創)」と橋渡し研究支援機関への期待

講演概要 日本製薬工業協会は「産業ビジョン2035」の実現に向け、Innovation、Access、Trustの3つの視点で活動しています。研究開発委員会は、Innovationに焦点を当て、アカデミアからの基礎研究の実用化に向けた、産学官の共創による創業イノベーションの創出を推進しています。

本講演では、製薬業界の立場からアカデミアや医療機関等との協働の重要性や昨年度発表した「企業が目指す医薬品候補物質の科学的・実務的要件」(「製薬企業の目指すTPP解説資料」)等の当委員会の具体的な取組みをご紹介します。橋渡し研究支援拠点への「新たな創薬シーズ創出と社会実装」に寄せる期待についてお話しします。

日本製薬工業協会 研究開発委員会
専門副委員長/
トランスレーショナルリサーチ
部会長



野々山 聡

東日本における再生細胞医療拠点『CReM TONOHANE』の現状と今後の展望

講演概要 藤田医科大学と慶應義塾大学を中心に構築してきた殿町羽田再生細胞医療拠点CReM TONOHANEは、神奈川県、川崎市、国衛研、実中研、さらには約200の企業が参画するかながわ再生細胞医療産業化ネットワーク(RINK)と連携しながら、産学公が一体となって再生細胞医療の社会実装を加速するプラットフォームです。本拠点の現状と貴学との連携を含めた今後の展望に関して紹介させていただきます。

慶應義塾大学医学部
教授



中村 雅也